

「家づくりの構想は 家族との時間から生まれる」

堀部直子建築設計事務所 堀部直子氏(36歳)

バリバリ仕事をしているキャリアウーマン風ではなく、
いい意味で力の抜けた柔軟さが素敵な建築家・堀部直子氏。
愛犬と子供と一緒にじゃれる姿が印象的な、女性建築家の素顔を垣間見た。
取材/白崎友美 撮影/杉本将章 ※平井広行



窓からのぞく十月桜は、
11月～翌2月にピンク
と白の小さな花をつける。

堀部氏が気に入り、1年半ほど
前から飼っている愛犬のくるり
くん。娘さんとも仲良し。



主婦と建築家の 二足のわらじを履きこなす

「絵を描くのが好きだったんです」。堀部直子氏に建築家を志した理由を問うと、こんな言葉が返ってきた。建物自体が好きで建築家を目指す人が多いなか、「家族が理系だったので、私も理系の進学を考えていて(笑)」と、なんともざつぐばらんなお答え。しかし、今は家庭を持ちながら建築に真摯に向き合うプロの女性建築家。その表情は、充実した生活から滲み出るのであるう、穏やかな笑顔に満ちていた。

堀部氏は1999年、子供を授かったことで以前の事務所を退所し、出産、子育てをする傍ら一級建築士の資格を取得し、2003年1月自らの事務所を設立した。そしてその最初の仕事で今の事務所兼住居だ。「当時は仕事が多かったため、時間をかけてできました(笑)」。「主人はあまり口を出さず奥様である堀部氏に信頼をおいてまかせたそう。」主人は、私を立て

てくれました」と、そのサポートに感謝する。二人で相談し、最もこだわったのは中庭。南に面して大きな窓をとり、宙に浮くテラスを設置。その横には、「部屋の中からお花見ができるように」と、十月桜の木が植えられた。外壁を高くして周りを囲むことで、プライバシーを確保。よって、大きな窓にはカーテンをつける必要がないので、部屋の中には一日中陽光が差し込み、明るく家族を照らす。

愛情がいついっぱい詰まった 我が家は自信作で代表作

シンプルで使い勝手のよさを第一に考えて設計する堀部氏。事務所と住居が一緒だと、どうしてもプライベートと仕事の線引きが難しくなる。しかし、1階を事務所にすることで、相談に来たクライアントに、2階の住居部を見せながら説明できるメリットがあるという。平面の設計図と数字を見ているだけでは伝わらないことも多い。実際に氏がこだわって作ったものを直に見ることで、話がスムーズに進むそうだ。

多く、愛犬・くるりくんとじゃれあったり、娘さんのパレエを鑑賞したりと、愛する家族との時間を大切にしている。娘さんのパレエを見ていうちに感化され、最近では、自らもパレエを習い始めたとか。子供と同じ目線で同じことに興味を持ち、仕事だけでなく、家族とのコミュニケーションを大切にしている堀部氏。男性の多い建築家の中で、気負わず自然体でいられるのは、家族の支えと本人の柔軟さゆえだろう。近い将来、夫婦建築家として活躍するプランもあり、今まで以上に家族の絆も深まりそうだ。

娘さんは大きなダンボールを見つけて家を造るのに夢中。DNAの力はすごい。将来が楽しみ。



右/密集した住宅の中で洗練された外観が印象的。
左/1階にある事務所。下/リビングの床から段差なく設置されたテラス。



堀部直子
(大阪府高槻市)

1972年大阪府生まれ。1995年近畿大学理工学部建築学科卒業。坂本昭・設計工房CASA、岡崎善久建築設計事務所、K.ASSOCIATES/Architectsを経て、2003年堀部直子建築設計事務所を設立。